

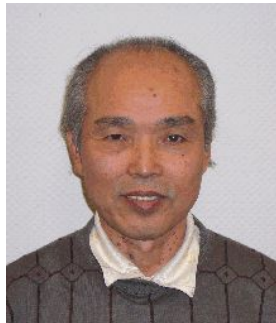
- 植村会長年頭ご挨拶-----①
- 計量記念日のつどい/都民計量のひろば---②
- 関東甲信越地区計量団体連絡協議会-----③
- 東西計コン合同研修見学会-----④
- 会員のひろば-----④

計量の安心・安全・信頼を推進する
計量器コンサルタント

新年明けましておめでとうございます。 植村会長「2013年新春のご挨拶」



Keiryoki
Consultant



計量器コンサルタント協会会員の皆様、明けましておめでとうございます。昨年中に予定された当会の事業は、皆様のご協力で計画の全てを完了することができました。厚くお礼申し上げます。特に40周年記念事業の一環で取り組んだ一般社団法人化が4月1日付けで実現できたことは会員にとって最大の喜びであり、計量器コンサルタントとしてさらなるお役立ちができる体制を整えることができました。とは言え、2008年のリーマンショック後、欧米諸国に代わって世界経済を牽引してきた中国経済は景気が減速しています。米国経済は徐々に明るさが見え始めていますが、ユーロ圏ではギリシャやスペインなどの財政問題が解決していないようで、本格的な景気回復には時間がかかりそうです。こうした世界経済がわが国にも影響し楽観視できない状況にあり、景気対策を一番に掲げる安倍新内閣に期待がかかります。

本紙前々号で、今年度の担当事業グループを従来の「研修・見学会」と「広告宣伝・情報」に、新たに「新規事業展開」と「会員拡大」の2グループを加えたことをお知らせしましたが、新しい体制になって早くも9か月を経過しました。

第1グループの「研修・見学会」は、八木副会長がリーダーとなり、従来より充実した内容の研修会等にするべく取り組んでいます。

第2グループの「広告宣伝・情報」は、石井副会長の積極的なリードで40周年記念事業のみでなく多くの作業をこなしており、まだ一部に工事中ではありますが、ホームページのリニューアルが期待されています。

第3グループの「新規事業展開」は、佐藤副会長がリーダーとなって有料セミナーなどを検討しています。収益を前提とした事業を行うのは当会にとっては初めてのことであり、実現に向けて越えなければならない高いハードルがあります。担当者は新規事業を立ち上げるべく奮闘していますがゼロからのスタートは容易ではなく、会員の力を結集してあたる必要があります。

第4グループの「会員拡大」は、近藤副会長にリーダーをお願いしましたところ、全国計量器販売者連合会（計販連）の会員になることを考えているようです。計販連は全国の計量器販売専門業者が会員で、計量器コンサルタント資格者の生みの親であり、現在でも日本計量振興協会と連携して資格取得者を増やしています。先日、出席させていただいた同会の理事会で、コンサルタント資格の有効活用には資格取得者のスキルアップと情報交換の場が必要であり、そのための組織が全国に広がってほしい、ということをお話したところ、宮城県と新潟県にあるということで、賛意をいただきました。また、当会が同会に加入することについても異論はなく、お互いが会員になればさらなる連携が深まり、組織の拡充、会員拡大につながり、それが資格取得者のスキルアップにとっても有効という結論に至りました。

いずれにしても、新しく加えられた「新規事業展開」と「会員拡大」は今後の当会の発展に不可欠といえます。「計量の安心・安全・信頼を推進する一般社団法人計量器コンサルタント協会」の存在価値を高めるために、全会員が一致協力して取り組もうではありませんか。

旧年中は大変お世話になり
ありがとうございました
本年もよろしく願っています



2012年度計量記念日のつどいを開催

(一社)東京都計量協会は、11月8日、ホテルアジュール竹芝を会場に、恒例の「計量記念日のつどい」を開催した。

式典では、東京都生活文化局局長感謝状の伝達、会員の功労に対する(一社)東京都計量協会会長表彰、計量管理研究部会が募集した計量強調月間標語の発表、贈賞などが行われた。

計量器コンサルタント協会からも多数参加して、計量記念日のつどいを大いに盛り上げていた。

平成24年度計量管理強調月間「標語」最優秀作品

1. 「正しい計量 確かな品質 一つひとつの積み重ね」

東日本旅客鉄道(株)東京車両総合センター車体課技術専任役 関口様 作品

2. 「計量は 品質管理の第一歩 正しく測って 確かな信頼」

森永乳業(株)大和工場製造課 竹花様 作品

写真上:挨拶する大野所長
下:懇親会会場の様子



2012「都民計量のひろば」 新宿駅西口で盛大に開催

都民計量のひろば実行委員会は、「2012都民計量のひろばーくらしと計量」を、11月1日の午前10時半から午後4時まで、東京・新宿駅西口広場イベントコーナーで盛大に開催した。

都民計量のひろばは計量体験コーナー「100gに挑戦、はかりを作ろう」計量アトラクションコーナー「計量マジック、マリンバ演奏(ヘブンアーティスト)」、健康の計量コーナー「血圧計、体組成計などによる各種測定」水道・ガス・電気の計量コーナー「水道・ガス・電気に関する」計量器・パネル展示」、環境の計量コーナー「環境測定器の展示やクイズなど」、食品の計量コーナー「食品の糖度、塩分、アルコール度数などの測定」、計量相談コーナー「計量相談・資料の展示」と各コーナーを設けて、クイズやゲームなどを楽しみながら、また空き時間を利用して簡易な血圧測定などを体験して、計量への関心を深めてもらうために、11月1日の計量記念日に開催している。

都民計量のひろば実行委員会は、東京都計量検定所、(一社)東京都計量協会、(一社)計量器コンサルタント協会、東京計量士会、東京科学機器協会、東京都環境計量協議会、東京都計量証明事業協会、(一社)日本海事検定協会、(一財)日本穀物検定協会関東支部、(一社)日本計量振興協会、日本硝子計量器工業協同組合、株インダ、株タニタ、株寺岡精工、株松屋、日本ガスメーター工業会関東支部、東京都水道局、日本電気計器検定所で構成している。

今回は、朝から快晴とあって、例年以上に開幕時から賑わい、各コーナーとも活況を呈した。しばらくすると百貨店から流れてくる人や、お昼休みや仕事の空き時間に立ち寄るサラリーマンが増えてきた。

計量器コンサルタント協会が担当した、健康と計量コーナーでは、日頃から健康に関心の高い人が、骨強度や体組成計に興味津々で、出た結果に関心を寄せていた。

そのほか食品と計量コーナー、環境と計量コーナー、ガス水道電気と計量コーナー、計量相談コーナーでは、日常の生活に深く関わっている各種の計量器や計測器、測定器等の展示やクイズ、実機を使った実演などが繰り広げられた。計量体験コーナーでは、人気の「100g計量チャレンジ」(小豆の100g計量に挑戦する催し)に長蛇の列ができて、希望者が多いため定員制にした寒暖計やハカリの手作り教室、毎回独特な味のある技で、注目のを集める計量マジックショーが行われた。

写真:賑わう会場の様子



関東甲信越地区計量団体連絡協議会を開催

2012(平成24)年度関東甲信越地区計量団体連絡協議会は、10月18日(木)、長野県北佐久郡軽井沢町の「軽井沢プリンスホテル ウエスト」で開催され、約200名が参加した。当番県は長野県。関東甲信越地区の計量協会と計量士会(計量士部会)による合同開催。

感謝状贈呈があり、各県からの提案議題を討議した。今年の議題は、▽計量器コンサルタント資格認定講習会の整備と拡大について(詳細は別項に掲載)▽計量器の発注に係る情報交換及びイベント用計量器の開発要望について▽特定計量器の地震等発生後の使用前検査▽計量情報の共有化と関プロ代表者会議のさらなる活用について。

記念講演は、光成美紀(株)FINEV代表による「震災後の企業の社会的責任とイノベーション」。翌10月19日は希望者による視察研修会(長野市方面)。

討議内容の記事は日本計量新報11月11日号からの抜粋。

【議題1】計量器コンサルタント資格認定講習会の整備と拡大について(一社)新潟県計量協会)

植村実敏氏((一社)東京都計量協会理事、計量器コンサルタント協会会長)が、提案の趣旨に賛成であることを表明して、東京都計量器コンサルタント協会が一般社団法人「計量器コンサルタント協会」に移行(設立)した経緯やコンサルタント資格の有益性を説明したほか、自己研鑽のための研修事業の実施事例などを説明した。

川住春樹氏((一社)日本計量振興協会専務理事)は、計量器コンサルタント創設の経緯と資格の意義と利用方法などを説明。また計量器コンサルタントの有資格者の地域的偏差があることを少しでも解消するための方策として、資格者の少ない地域で資格取得講習を実施していきたい旨を述べた。

土田泰秀議長が提案趣旨を確認。協議会からの要望とすることで議事を取り扱うことにした。



写真上: 発言する植村会長
下: 会場全体の様子

東西計コン合同研修見学会

(一社)計量器コンサルタント協会では10月10日、恒例の東西計コン合同研修見学会を開催した。

本年は東京が開催当番で、八木副会長率いる第1グループの企画で、ナスラック鎌倉工場で、ステンレス加工を基礎技術とした厨房設備の製造工程を見学した。

旧社名はNASステンレス、日本有数の住宅設備の製造会社である。量産型のキッチンから高級システムキッチンまで幅広く家庭の夢を実現してきた企業である。

グループ内では水周りの住設機器のほか、収納家具、内装用建具、各種建材、また高耐震を誇る建築用構造部材システムなど広く手がけているという。

工場建屋は1階がステンレス材をシンクやワークトップなど各種部材に加工する金属加工専用フロアとし、2階に倉庫、事務部門、試験室等を配置、3階にキッチンユニットの扉、側板等収納部ユニットなどの木製部品の加工、組み立て部門、最終セットアップラインが配置されている。

やはり圧巻は1階の金属加工専用フロア、所狭しと並ぶベンダー(折り曲げ機)、プレス、ステンレスコイルを切り出し、研磨、保護膜張りを連続的に行うラインなど。中でもシンクを一枚板から深絞り加工するプレス機は400t、800tという巨大な能力のものが活躍していた。

3階の木エラインは各種ボード類から扉用、側板用等を切りだすと共に、小口の化粧テープ張りなどが自動的に仕上がるようになっていて、あとは各部材を組み合わせて所定の規格の収納部や引き出しなどを組上げていく。最終的には注文どおりのキッチンを構成するボックス類、ワークトップ、網かごなど金物類、内蔵トレイや棚板まで一式がそろえられて出荷待ちとなる。

驚いたのはラインについている工員の皆さんが見学者が足を止めるごとに「いらっしゃいませ」と笑顔であいさつしてくること。見学者もお客様という考えが徹底しているようで気持ちがいい。ガイドしてくれた職員に、「昔は箱物にはノックダウンシステムがあったが…」と聞いてみると、「以前のような大量受注が見込めなくなり寂しいが、代わりに最終工程までここで作りこむ高品質なものづくりを売りにしていきたいと思っています」との答えであった。

見学を終え、横浜駅前の横浜プラザホテル「ル・ファール」で懇親会。

参加者は東京組名、13関西組7名で、相互の活動報告を披露、和やかに情報交換が行われた。



写真上、中: 工場内の様子 / 下: 懇親会の様子

2012年度第2回技術研修会開催予告

今年度第2回目の技術研修会は、「環境」をテーマとして2月中旬開催を予定しております。詳細につきましては、決定次第ご案内を送付致しますのでご了承下さい。
会員の皆様に役立つ技術研修会となるよう企画検討中です。どうぞ、ご期待下さい。

なお、協会のホームページでも随時お知らせを更新し最新情報を掲載しておりますので、併せてご確認ください。

自身のスキルアップのため、技術研修会へは積極的に参加しましょう！



・会・員・の・広・場・

会員企業紹介

守谷東京サービス株式会社

設立日: 1972年5月29日

所在地: 本社工場: 東京都墨田区立川1-5-15

鹿島営業所: 茨城県神栖市神栖4-7-3

URL: <http://www.moriya-hakari.co.jp>

弊社は設立から40年間、お客様のニーズに答えるだけに留まらず、常に一歩進んで我々から提案をする会社です。国際化に伴う規格標準の見直し等による品質向上、規格への適合と積極的に取組み常にお客様へ最適の製品と信頼をお届け致します。弊社では、こんなサービスを通して皆様のお役に立ちます。

設備の改修、効率化

プラント設計、自動制御機器
FA制御システム

はかりの修理・改造・検査 分銅の修理・校正・検査

はかりの調子が悪い
古いタイプを改造したい
例) 機械式をロードセル式に
そろそろオーバーホールを
定期検査をしたい
分銅の修理校正をしたい

はかり・分銅の販売

代理店、特約店として
各メーカーの商品を
お届けします

ハードからソフトまで

お客様のご希望にあわせて
使いやすいを第一に効率を
良くします

主要業務実績

* 設計・製造・施工

飼料配合計量プラント/食料計量プラント/化成品計量プラント/各種ホッパースケール/各種トラックスケール/自動制御システム/電子はかり/オートチェッカー

* 各種計量器のメンテナンス * 特定計量器の定期検査及び各種計量器の検査 * 各種測定器販売 * 各種天びん、分銅販売/各種分銅の基準器検査、JCSS校正及び修理校正

特殊機器及び開発

コンピューターソフトウェア開発、製造/各種データ処理システム開発、製造/FA制御機器開発、製造

計量コラム

「デジタルロードセル」

私たち計量人が知ってるつもりが？実は知らなかった。そんな用語を調べてみました。今回は「デジタルロードセル」についてです。

重量表示がデジタル表示だから、デジタルロードセルと言うわけではありません。まず従来のアナログロードセルですが、ロードセルに加えられた荷重を微小な電圧の変化としてアナログ出力し、接続する指示計で増幅とA/D変換を行い重量表示をしていました。一方デジタルロードセルでは、ロードセル本体に増幅部、A/D変換部、演算部を組み込み、デジタル信号を直接出力します。指示計、ロードセルケーブルは温度影響を受けず温度特性の良い計量を行なうことが可能です。デジタル出力なので、ロードセルケーブルの長さを変更しても計量値に影響しません。高速計量、仕分け、充填、薬品と言う高い精度が要求される分野にも新しい可能性をもたらします。用途に応じたプロセスに必要なコントロール機能を備えたものも有ります。耐ノイズ、メンテナンス性、ハイコストパフォーマンスに優れていると言われています。従来のアナログロードセル用指示計に、そのまま接続することは出来ません。同じデジタルロードセル用指示計に接続し使用して下さい。

マイコンを組み込んだロードセル等には、はかりの性能に関する情報を常時監視する予防診断機能付きタイプもあるようです。ただ、現在は非対応のメーカーもあり、アナログ、デジタル両方のロードセルが存在しています。



写真: 左
セメント出荷用トラックスケール
写真: 左下
樹脂用ホッパースケール
写真: 右下
配合設備制御盤

